

平成19年10月19日

各 位

不動産投信発行者名

東京都港区六本木六丁目10番1号  
六本木ヒルズ森タワー

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート投資法人

代表者名 執行役員

鈴木 博之

(コード番号：8981)

資産運用会社名

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート株式会社

代表者名 代表取締役

鈴木 博之

問合せ先 管理本部長

板橋 昇

TEL. 03-6439-0333

2007年9月度の月次開示に関するお知らせ

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート投資法人（以下「本投資法人」といいます。）の2007年9月度の月次総売上げ並びに宿泊部門の客室稼働率、ADR及びRevPARを下記のとおりお知らせいたします。本投資法人は変動賃料の支払いを伴うホテルであって、ホテル賃借人から開示について同意をうけることができたホテルについて継続的に月次開示をいたします。

## 記

ホテル名/項目	客室稼働率(%)	ADR(円)	RevPAR(円)	売上高(百万円)
神戸メリケンパークオリエンタルホテル	84.5%	15,558	13,154	549
オリエンタルホテル 東京ベイ	84.8%	18,347	15,561	560
なんばオリエンタルホテル	95.1%	10,198	9,701	167
ホテル日航アリビラ	94.1%	26,682	25,116	531

上記開示に関するジャパン・ホテル・アンド・リゾート株式会社（運用会社）からのコメント：

神戸メリケンパークオリエンタルホテルについて

宿泊部門においては、前年同月比を上回るADRを確保いたしました。コンベンション関連の宿泊予約の直前キャンセル等の要因により、稼働率が低下し、結果として対前年同月を下回る売上となりました。レストラン部門も宿泊稼働率低下の影響により、前年同月を下回る売上となりました。婚礼部門では、婚礼件数及び件単価が対前年を上回り、前年同月を上回る売上を達成することができました。ホテルの総売上は、婚礼部門の好調さが宿泊部門とレストラン部門の売上減をカバーし、前年同月と比較して上回る結果となりました。

オリエンタルホテル 東京ベイ（旧：新浦安オリエンタルホテル）について

宿泊部門においては、前年とほぼ同じ水準のADRを確保いたしました。新規参入ホテルの影響により宿泊稼働率が低下し、結果として前年同月を下回る売上となりました。レストラン部門では、宿泊稼働率低下に伴う朝食売上減少の影響はあったものの、レストラン「チャイニーズ・テーブル」の改装効

果等による売上増が貢献したため、前年同月を上回る売上となりました。宴会部門においては、一般宴会が対前年同月を下回る売上となりましたが、婚礼売上増が一般宴会売上減をカバーし、結果として宴会売上が前年同月を上回りました。ホテルの総売上は、宴会部門及びレストラン部門が対前年同月で好調だったものの、宿泊売上が減少したことにより、対前年同月の売上を下回る結果となりました。

#### なんばオリエンタルホテルについて

当ホテルにおいては、インターネットを通じたウェブ予約、エージェントを通しての予約共に前年同月を上回り、稼働率・ADR共に上昇させ、ホテルの総売上は、前年同月と比較して上回る結果となりました。

#### ホテル日航アリビラについて

宿泊部門においては、高価格帯のウェブ予約増加により、ADRが対前年を上回った為、宿泊売上は前年同月を上回る結果になりました。レストラン部門においても、宿泊人数は減少したものの、朝食喫食率が増加した為、前年同月を上回る結果となりました。宴会部門売上も婚礼宴会が好調であったことから、宿泊部門、レストラン部門、宴会部門等の主要営業部門が前年同月を上回った結果、ホテルの総売上も前年同月と比較して上回る結果となりました。

- 
- 注 1) 上記のコメントは運用会社が賃借人から提供を受けた情報に基づいて作成しており、あくまでおおむねの傾向についての参考情報として記載するものにすぎません。コメント中に記載された数値・情報については、監査等の手続を経ているものではなく、運用会社による独自の検証を行なう性質のものでもなく、個々の数字・内容の正確性・完前性について保証できるものではありませんのでご注意ください。
- 注 2) 各月の数字については監査等の手続を経していないため、各月を合計した金額は、後に提出する半期報告書、有価証券報告書に記載される6ヶ月間及び年間の売上合計と合わない場合があります。また、各月の売上についても、半期報告書、有価証券報告書に記載される各月の売上と相違する場合があります。
- 注 3) ADR：平均客室販売単価（Average Daily Rate）をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計（サービス料を除きます。）を同期間の販売客室数合計で除した値をいいます。
- 注 4) RevPAR：販売可能客室数当たり宿泊部門売上（Revenue Per Available Room）をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計を同期間の販売可能客室数合計で除したものをいい、ADRと客室稼働率の積にて計算される数値と同値となります。
- 注 5) 客室稼働率については小数点第2位を、ADR、RevPARについては小数点第1位を四捨五入して記載しています。売上高については、百万円未満を四捨五入して記載しています。

以上

\* 本投資法人のホームページアドレス：<http://www.jhrth.com/>